



新盆、高燈籠に思う

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 混

忘れもしない、昨年の三月十一日東日本大震災、それから一年五ヶ月が経ちました。被害地の建物や瓦礫は市の早急の対策でほぼ除去されてきました。しかし、その跡の敷地には無残にも建物の基礎コンクリートや荒れ果てた庭が残っています。訪れる人も疎らになった被災地には雑草がびこり、そのすき間を縫うようにコスモスや誰が植えたのか向日葵が咲いています。気候は、「二〇一〇〜三年続いている夏の異常気象を象徴するかのよう」に暑い日が続きました。今回の地震では大きな揺れによる建物の損壊での人的被害はほとんど無かったが、大津波の大襲来による家屋の被害や人的被害が数多く見られました。今でも行方不明の方が多く存在しています。そんな中、今年も都会よりも月遅れの八月のお盆の行事が巡ってきました。

お盆は正式には「盂蘭盆会(ウラボンエ)」といいますが、これはインドの言葉の一つ、サンスクリット語のウラボナ(逆さ吊り)を漢字に音写したもので、略して「お盆」と読んでいます。お盆の始まりについては、「盂蘭盆経(ウラボンキョウ)」の中の親孝行の大切さを説いた教えが、昔から知られています。それは、「お釈迦様の弟子の中で、神通力一番とされている日連尊者が、ある時神通力を使って母親の死後の世界を覗いてみました。すると亡き母は餓鬼道に落ち、逆さ吊りにされ苦しんでいると知りました。そこで、どうしたら母親を救えるのか、お釈迦様に相談に行きました。するとお釈迦様は、おまえが多くの人に施しをすれば、母親は救われると言われました。そこで日連尊者はお釈迦様の教えに従い、夏の修行期

間のあける七月十五日に、多くの僧たちに飲食物をささげて供養したのです。すると、その功德によって、母親は極楽往生がとげられました。」という話です。それ以来(旧暦)七月十五日は、先祖供養の重要な日になったと伝えられています。

現在、日本各地で行われているお盆の行事は、各地の祖霊信仰の風習などが加わったり、宗派による違いなどさまざまですが、一般的にはご先祖や故人の霊が帰ってくると考えられています。ですから、一般の家庭では、家族や親戚が集まり、「ご先祖や故人の霊を迎え、感謝供養する行事として行われています。いわきではお盆になると仏壇の回りや前に精霊棚(盆棚)を設けます。台の上には真菰(まこも)の筵(むしろ)を敷き、位牌を中心に安置し、仏具・お花・ナスやキュウリ・季節の野菜や果物、精進料理を供えた仏膳などを供えます。蓮の葉にナスやキュウリをさいの目に刻んで洗い米と一緒に入れた「水の子」蓮の葉に水をたらした「閻伽水」みそはぎ・ほおずきなどを供える場合もあります。十三日の夕方には家の前で、焙烙(ほうろく)という素焼きの皿の上で松根の木片を焚いて、「ご先祖や故人の霊をお迎える」「精霊迎え」をします。その霊が迷わず帰ってくる目印にするのが「迎え火」でもあり「高灯籠」なのです。特に高灯籠は新盆の家の目印でもあり、供養に巡って回る「じゃんがら踊り」の方々の誘導燈なのです。

今回の地震・津波の襲来から、繰り返しますがこの八月で一年五ヶ月経ちました。いわき市の海岸に押し寄せた津波の被害は筆舌に表しがたいくらいの惨禍でした。未だに住み家の定まらない家族が荒れ果てた海岸の被災自宅地に、高灯籠を立て、真菰の筵を敷き盆飾りを整え迎え火を焚いて精霊を迎えようとする淋しい情景が夕闇の中にあちこち見られていました。瓦礫の中に立つ高灯籠の佇しい灯が早く消えるように、早期の復興が望まれます。お盆休みの数日間には精霊を迎え祖先を敬うと共に、心の中のアルバムをめくりほのぼのとした気持ちを持つようにしたいものです。お盆という日本の風習を大事にしなが、望洋荘やせんしょう苑に住む方々との思い出を家族に代わって聞いてあげる八月の夏の夕暮れに上げて下さい。

永崎ユニット夏祭り

八月二十六日(日)塩屋岬ホールにて午前十一時より夏祭りを行いました。

御家族様にはスタッフ全員と一緒に、朝早くから会場づくりや料理の下準備のお手伝いをして頂きました。入居者様はバーベキューを美味しく頬張っております。真夏が一番でしょうか？

今年も御家族様と思い出の楽しい夏のページを綴る事が出来ました。

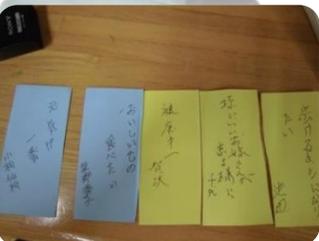


七夕様 短冊にお願い事

♪ 笹の葉さらさら軒端にゆれる
七夕様の季節が到来しますと、このフレーズが頭を過るような気がします。

今年も猛暑対策の一つとして、入居様の熱中症や体力消耗が心配され、平七夕の見学を控えました。その代わりに施設内で短冊づくりを笹の葉に結び付けました。

皆様、様々なお願い事をしたようです。



夏の風物詩 朝顔

ショートステイ居室の前に朝顔の花が今年も色とりどりの花を咲かせました。ベランダ散歩中の入居者様が立ち止まっては、お花を觀賞する光景が見られました。施設に真夏の到来を告げる花は何といつても朝顔でしょうか。来年も立派な花を咲かせたいものです。



オリジナル ポロシャツ作成

いわき踊りに初参加するにあたりオリジナルポロシャツを作成しました。背面にプリントしたロゴは「ALL WRAPPED WITH LOVE」すべてを愛で包む福祉に携わる者として入居者様に愛情を持った介護をしていきたいとの思いから。

「UPTO BE HAPPY」幸せにかつて入居者様・家族様、職員、みんな幸せに向かつて毎日を充実したのにもして行きましょう。



地域密着型介護老人福祉施設 せんしょう苑

「花火大会」正面玄関前

八月三日(金)午後六時三〇分より、正面玄関前で、花火大会を開催いたしました。当日は夕方になってやや涼しく過ごしやすい気温でした。入居者様みなどで色とりどりの手持ち花火を楽しまれ、激しく噴き出す花火を鑑賞していただきました。街中であり高く打ち上げる花火や大きな音が出る花火は出来ませんが、みなさんでスイカを食べながら談笑されたりと素敵な夕涼みが出来たと思います。



「七夕祭り見学」みまや南&東

八月七日(火)午後一時三〇分から、みまや南・東ユニット入居者様五名で、平市街地で行われている「七夕祭り」を見学に行ってきました。道路の左右にずらりと並ぶ華やかな七夕飾り、そして食欲をそそる出店の数々、入居者様も綺麗な七夕飾りを見て歩き少し興奮の様子でした。日陰に入り、かき氷やジュースで身体を涼め、たき焼き、焼きそば等で小腹を満たし、心身共にリフレッシュすることが出来ました。



「じゃんがら念仏踊り」

当施設職員が入居者様に「じゃんがら念仏踊り」を見せてあげたいと自分が所属する「高久青年会」の皆様と八月十三日(月)午前十時三〇分に来苑され「じゃんがら念仏踊り」を披露してくださいました。江戸時代の平藩より発祥した郷土芸能であり、入居者の皆様には馴染みの深い踊りです。皆様それぞれ大切な人へのび、鉦や太鼓の音色と踊りを一瞥になっていったと思います。



【いわきおどり】に初参加

八月八日(水)午後七時四五分より、「いわきおどり」第四部にはじめて参加いたしました。須田医院・望洋荘及びせんしよう苑から募った有志により構成された参加者一同は、揃いのユニフォームに袖を通し、心を一にして踊りに臨みました。開始当初は前で踊るグループとの間隔をうまく測りながら踊るのに苦労しましたが、踊りを続けるうちに自然な感覚が取れるようになり、この日の為に練習を重ねてきた成果もあって、一体感のある見事な踊りを披露することが出来ました。休憩時間には予め用意しておいたスポーツドリンクやきゅうりの漬け物などを摂取して、水分や塩分を補給しながら、合計四十分に及ぶ踊りを最後まで楽しみました。



望洋荘

【九月の行事予定】

九月十六日(日) 午後十二時半より

「望洋荘祭り」



せんしよう苑

九月三日(月) 午前十一時より

「芋煮会」 みまや東ユニット

九月五・六日(水・木) 午前九時より

「福祉体験学習」 好間中学校

九月二七日(木) 午前九時より

「福祉体験学習」 湯本第一中学校

「ガストでティータイム」午後二時～

九月十二日(水) みまや南

九月十七日(月) みまや東

九月十九日(水) みまや西



望洋荘

【九月のお誕生会予定】

九月一日(土)

永崎 大谷 サタ子様 (九五歳) 誕生会

九月二日(日)

四倉 池田 洋子様 (八〇歳) 誕生会

九月三日(月)

勿来 鈴木 美智規様 (六三歳) 誕生会

九月五日(水)

永崎 涌井 マサ子様 (九二歳) 誕生会

九月三〇日(土)

勿来 坂本 キヨ様 (九五歳) 誕生会

せんしよう苑

九月十七日(土)

みまや南 斎藤 ノリ子様 (九五歳) 誕生会

九月三〇日(日)

みまや南 遠藤 武雄様 (八四歳) 誕生会

編集後記

『せんしよう苑・望洋荘』便り

平成二十四年八月三十一日発行

発行所 いわき市平豊間字合磯三十九番地
社会福祉法人 りんさく福祉会

地域密着型介護老人福祉施設 せんしよう苑

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246)388-6331
電話 (0246)55-7373